

改憲、共謀罪、森友・加計疑惑……

# マスメディアは「事実」をどこまで報道しているか？

8月12日(土) 午後2時~4時

那須烏山市 烏山公民館

講師 田野辺 隆男 氏

入場  
無料



— (プロフィール) —

芳賀町生まれ。宇都宮高校・東京大学法学部卒。  
1983年にNHKに入局。番組制作ディレクターとして「ニュース7」や経済番組を中心に制作にたずさわる。震災後の福島を含め、全国6つの放送局で地域の課題を見つめてきた。  
2014年宇都宮放送局長に。15年退職。

## 国民の「知る権利」と「報道の自由」

私たち国民は、メディア（テレビ・新聞など）を通して、政治や行政について知ることができ、その情報をもとに国が何をしているのかを「監視」することができます。そして、国民の「監視」が機能しなければ、国の暴走を止めることができなくなってしまいます。

このシステムが正常に機能するには、マスメディアの役割が重要です。「報道の自由」にもとづき、知り得た「事実」を広く国民に知らせ、国民の「知る権利」に応えることが不可欠です。

## 報道に「忖度」はないのか

2013年の「秘密保護法」に始まり「安保法制」（15年）「共謀罪」と日本の将来を左右する重要・重大な法律が次々と強行採決され、さらに「改憲」発言があり、「森友・加計疑惑」も依然ヤミの中です。こうした問題に対し、私たちが知りたい「事実」はどこまで報道されているのでしょうか。

国連の特別報告者から、日本の政府が報道機関に対して圧力をかけている懸念があるとの指摘がありました。“政府が右と言うものを左と言うわけにはいかない”と発言した舛井前NHK会長のように、マスメディアは政府の意向を「忖度」して、政府に都合のいい情報だけを流していることはないでしょうか。

32年間の報道の現場で得た豊富な知識と培った経験で、マスメディアを鋭く分析。ご期待下さい。

主催 那須南九条の会（代表 高野允義 0287-82-2942）

後援 那須烏山市、那珂川町、下野新聞社、朝日新聞、いわむらかずお絵本の丘美術館、もうひとつの美術館、石の蔵ビュースタジオ、ギャラリーこぼ